

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
都市部の公園・北部グループ	(指定管理者名)公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要)都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業(指定管理者事業を含む)及び収益事業を行う。
指定期間	
H28.4.1 ~ R5.3.31(7年間)	

2 施設名	3 収支（単位：千円）		公園別支出額	
戸山公園・善福寺公園・高井戸公園 浮間公園・赤塚公園・石神井公園・大泉中央公園	項目	金額		
	収入計	694,477	戸山公園:140,402	善福寺公園:69,076
	内 指定管理料	694,477	高井戸公園:22,958	浮間公園:93,308
	利用料金	0	赤塚公園:126,744	石神井公園:144,201
	支出計	691,356	大泉中央公園:94,667	
	収支差	3,121		

4 管理運営の概要

基本理念： 水と緑の宝石箱 ～地域と共に磨き、輝く～

【築く】 公園の持つ機能・役割を守り、地域の安全・安心を高める

- ◆日々のアメニティ巡回での指導や、マナーアップキャンペーン等における普及啓発を通じ、粘り強く適正化を図りました。
- ◆計画的な樹木管理や、施設の点検・補修によって、公園施設を良好に維持し、安全・安心・快適な環境を提供しました。
- ◆夜間・早朝の参集訓練や、地域と連携した訓練や普及啓発イベントを通じて、災害対応力を強化しました。

【磨く】 都立公園としての魅力を更に高め、次世代に継承する

- ◆SDGsに基づき、希少な動植物の保護や外来生物防除を行うとともに、イベントやSNS等を通じて普及啓発を行うことで、生物多様性を推進しました。
- ◆公園の自然や歴史資源を活かす「フィールドミュージアム」や、公園を代表する景観を定めた「パークビュースポット」など独自の視点で、公園の維持管理や、多様な媒体やイベントを通じたPR活動を行い、価値の向上に取り組みました。

【輝く】 多様なニーズに的確に対応し、公園を核に地域の活力を高める

- ◆地域の企業やNPO等と連携したエリアマネジメントを立上げ、地域ニーズを汲んだサードプレイスの創出するプロジェクトに着手しました。
- ◆地域の住民や学校・団体等と連携したイベントやアート展、花壇づくりや、清掃活動等を通じて、都民協働を推進し、公園に関する理解と愛着を深めてもらいました。
- ◆利用者からの意見を活かして、イベントやサービスの改善を図り、公園の魅力向上につなげました。

5 管理状況（維持管理）

- ◆SDGsに基づき、ボランティア等との協働によるキンランやニリンソウ等希少動植物の保全（善福寺・赤塚・石神井）や、ミシシippアカミミガメやブルーギル等外来種の駆除（善福寺・浮間・石神井）を推進しました。
- ◆自然観察会や、SNS等での積極的な情報発信、フィールドビンゴ等の体験型ツールの開発と活用等を通じて、広く生物多様性に関する普及啓発を行いました。（全公園）
- ◆外来種のコンポストによるたい肥化や、剪定枝等発生材のチップ化をによって園内循環を促進するとともに、環境や美観の向上を図りました。（全公園）
- ◆季節に配慮した樹木管理に加え、外周部剪定を進めることで、安全性と美観が向上しました。（高井戸を除く全公園）
- ◆給排水設備、遊具、ベンチ等の点検・補修を適切に行い、安全・快適性の維持と、施設の長寿命化に繋げました。（全公園）
- ◆トイレの洋式化に加えて、子供用便座の設置により、インバウンドや親子連れのニーズに応えました。（浮間）
- ◆野球場等のスポーツ施設の日常整備や、施設改修を適切に実施し、東京2020大会に向けたスポーツ機運の醸成を図りました。（浮間・赤塚・石神井・大泉）
- ◆台風等の気象災害時は、事前対策、点検・対処、報告等を迅速かつ的確に実施しました。（全公園）

6 利用者アンケート結果

実施方法：

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
戸山公園	4.8	4.6	4.7	4.5	4.9
善福寺公園	4.8	4.7	4.7	4.8	4.9
高井戸公園	4.6	4.7	4.8	4.7	4.6
浮間公園	4.9	4.8	4.6	4.6	4.8
赤塚公園	4.9	4.8	4.8	4.9	4.8
石神井公園	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7
大泉中央公園	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9

7 入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
戸山公園	1,105,170	コロナ禍による施設閉鎖やイベント中止等がありましたが、ほぼ昨年通りの数値となりました。
善福寺公園	1,192,446	コロナ禍の外出自粛にあって、逆に近隣住民を中心とした利用が増え昨年度から4割増となりました。
高井戸公園	392,800	(※新規開園) 近隣の親子連れを中心に、平日を含めて賑わいました。
浮間公園	969,973	コロナ禍による施設閉鎖等がありましたが、近隣を中心に昨年度から微増となりました。
赤塚公園	816,068	コロナ禍による施設閉鎖等がありましたが、近隣を中心に昨年度から微増となりました。
石神井公園	2,317,423	GW前後など急増しましたが、外出自粛の呼びかけなどにより、ほぼ昨年通りの数値に収まりました。
大泉中央公園	286,017	遠方からの遠足等がほぼ中止になったこともあり、昨年度から2割減となりました。
合計	7,079,897	

戸山公園

様式1-② 令和2年度施設別事業報告書
都市部の公園・北部グループ
指定管理者：公益財団法人東京都公園協会



戸山荘をはじめとした歴史・文化の発信と
五輪を契機とした安全・安心・健やかな公園づくり

コロナに負けるな！新たな公園の楽しみ方の提供

■新たなサードプレイスとイベント提供 【事業計画 3-②-44.59 評価区分 20】

コロナ禍のため、都民協働による「内藤とうがらしづくり」は断念しましたが、代わって畑には**コキア 224 株を植栽**し、幅広い世代から親しまれる**新たな魅力スポットを創出**しました。見頃を終えたコキアは、子どもでも簡単に作成できる「ミニほうきキット」として配布し、自宅でも公園や季節を感じられるコロナ禍ならではの楽しみを提供。高齢者からも「懐かしい気持ちになった」など好意的な意見があり、幅広い世代に満足頂くことができました。



コキアほうきの
屋外工作

■地域連携による伝統文化発信 【事業計画 3-②-57 評価区分 20】

同様に、コロナ禍のため中止となった流鏝馬に代えて、新宿歴史博物館や穴八幡宮と連携した「**箱根山の魅力と流鏝馬展**」を開催しました。パネルや写真の屋外展示を通じて、歴史ある**箱根山地区の魅力**を余すことなく紹介し、関心を高めて頂くことができました。

■戸山ならではのエール 【事業計画 3-②-67 評価区分 32】

戸山公園は、国立国際医療研究センターに隣接していることから、**SNS や園内放送で、コロナ最前線に対応に当たる医療・介護従事者等に向けたエール**を送りました。また、園内上空を飛行したブルーインパルスを撮影しツイッターに投稿するなどして、種々の対応に協力頂いている来園者に向けても謝意を伝えつつ、引き続きの注意喚起を行いました。



ツイッターでのエール

コロナ禍に伴う様々な問題事案への的確な対応

■ホームレスの自立支援対応 【事業計画 3-②-73 評価区分 1.30】

東京都や区、福祉団体、警察等と連携した巡回美化清掃を継続するとともに、滞留者の状況確認と積極的な対話を日々実践することで自立を促しつつ、テント設置や放置物等の不適正行為を抑止しました。**特に今年度はコロナ禍に伴い、新規流入者が増加**したため対応を強化し、失業した外国人労働者などにも丁寧に福祉を案内するなどして滞留を防ぎ、**テント0を継続**。来園者が安心して利用できる環境を確保しました。



地道な声掛けと自立促進

■突発事案に対する臨機応変な対応

コロナ禍による花火大会中止等の影響を受け、公園では花火利用が増加し、社会的にも問題となりましたが、(7~9月の届出：186件、昨年比500%強)、事前のルール周知や夜間警備との連携によってマナーを順守頂き、近隣への迷惑防止を徹底しました。また、外国人による食用を目的としたセミの幼虫の乱獲が相次ぎましたが、3か国語での警告や、巡回指導によって不正行為を防止しました。

地域ぐるみで魅力増進！戸山の歴史と文化

■箱根山の魅力発信と登頂促進に向けた取組

【事業計画 3-②-1, 72 評価区分 20】

「登頂証明書」、フィールドミュージアムガイド「尾張戸山荘今昔」の発行に加えて、新たに新宿区印刷・製本関連協議会とコラボした紙製のオリジナル手提げ袋（5,000部）を作成し、歴史ガイドツアーなどで配布しました。また、クラブツーリズムとの連携によるツアー客の誘致や、公園協会アプリ「TOKYO PARKS PLAY」を活用したクイズラリー等によって、箱根山の魅力の多角的な普及啓発と、利用促進に繋げることができました。



オリジナル手提げ袋



コロナ対策を徹底したツアー

■大久保つつじの再興！

【事業計画 3-③-4 評価区分 22】

新宿区大久保出張所と連携して、地元ゆかりの江戸園芸植物にちなみ「大久保つつじを守り育てるプロジェクト」を開始しました。今年度は植栽計画やレイアウトを検討しつつ、園内の大久保つつじから挿し芽を採取。今後の計画的な育苗と普及啓発によって、公園から地域に魅力づくりの輪を広げ、一緒に盛り上げていきます。



大久保つつじさし芽採取

防災意識を高める訓練や公園機能のPR強化！

■地域と一体となった防災訓練の実施

【事業計画 3-②-81、 評価区分 13, 23】

感染症拡大防止のため、「防災フェスタ」等の普及啓発イベントは中止せざるをえませんでした。コロナ禍でも災害は待ってくれないため、感染症対策を徹底のもと、新たに新宿消防署や牛込消防署をはじめ地域団体と連携した新たな訓練をスタートしました。また、新宿区と連携し防災トイレや、かまどベンチ等の防災施設の展示会などを実施し、公園の防災機能のPRとともに、利用者の防災意識や地域の防災対応力の強化に繋がりました。



模擬消火器訓練

また、コロナ禍により、近隣の日本語学校5校、延べ3,000人以上の参加を予定していた訓練が中止となったため、代わって日本語版及び英語版防災パンフレットを配布し、いつ何時発生するか分からない地震への備えとして大変感謝されました。

安全・安心空間として更なる快適性の向上

■不陸や冠水対策とゴミ清掃の徹底

【事業計画 3-③-37、 評価区分 2】

雨天時は冠水し迂回をお願いしていた明治通り口への雨水桝新設や、近隣の生活動線にもなっている園路への木材チップ敷詰め、多くの学生が利用するやくどうの広場のゴムチップ舗装補修、ランニングコースの土系舗装など、利用者ニーズを踏まえた細やかな補修を行い、快適性と利便性の向上に繋がりました。また、コロナ対策として、トイレ等の清掃や消毒、石鹸補充等を小まめに行いつつ、テイクアウト等で増加したゴミの回収を徹底することで、感謝の声が(376件、昨年比670%強)と大幅に増加するとともに、顧客満足度も4.7ポイントと高い評価を受けました。

善福寺公園

様式1-② 令和2年度施設別事業報告書
都市部の公園・北部グループ
指定管理者：公益財団法人東京都公園協会



60年前の自然豊かな姿を今まで引き継ぎ、次の60年も美しい善福寺公園であるための取り組み。

地域とともにおもてなし みんなが活躍！善福寺公園

■ 地域と一体となった企画展示でコミュニティを活性化【事業計画 3-②-52 評価区分 22】

ミニギャラリーでは地域とともに企画立案、作品募集、展示を行い、コミュニティ活性化にも寄与しています。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部中止や期間短縮、三密防止対策、消毒薬の設置等、万全の対策を講じて利用者をお迎えしました。

また、展示内容にも工夫を凝らし、夏休み期間中には、地域の愛好家より譲り受けた貴重なコレクションを含む昆虫標本 690点とともに、園内で採取したカブトムシの生態展示等を行い、コロナ禍の外出自粛で郊外や博物館などに行けない子ども達の自由研究にも役立ててもらいつつ、地域に対する愛着も深めて頂けました。



「夏休み昆虫標本展」

■ こどもボランティアが大活躍【事業計画 3-②-50 評価区分 22】

昨年度リニューアルした「おもてなし花壇」に、子どもウケするかわいいうろの収納・貸出スペースを設置し、子どもたちと作る・育てる花壇を創出しました。子ども達が、楽しく花壇管理に携わることで夏場の水やりもスムーズになり花苗も順調に成長、園内の人気スポットとなりました。

環境学習として保護者からも大好評で、各公園でもボランティアの高齢化による活動存続が危ぶまれるなか、固定のボランティアにこだわらない、気軽に参加できる新たな協働の仕組みを築き、他公園にも成果を波及させることができました。



こどもボランティアによる水やり

多様な主体と連携！善福寺公園のSDGsの取組



■ “野鳥の聖地” 善福寺公園の魅力発信

【事業計画 3-②-7 評価区分 20】

善福寺公園を「発祥地」と位置付けている「日本野鳥の会」との連携を強化し、野鳥や公園の魅力発信を充実させました。野鳥の飛来状況などを、会員で写真家でもあるメンバーとタイムリーに共有することで、野鳥マニアから素人まで、幅広いユーザーにウケる質の高い画像や情報を提供し、自然豊かな善福寺のファンを増やすことができました。また、「日本野鳥の会」のHPで「初夏の善福寺公園」「初冬の善福寺公園」などの特集を組んで頂いたところ、その広報力や影響力も相まって、コロナ禍でありましたが、広域より新規来園者が増えるなど大きな反響がありました。



「日本野鳥の会」のHP

■外来種防除と固有種保全の取組 PR 【事業計画 3-②-7 3-③-5 評価区分 6】

東京都環境局とコラボしたマナーアップキャンペーンや、約3万人が来場した杉並区の「すぎなみフェスタ」への初出展、NPOと連携した「一日水族館」の開催や、地元高校生と協働した普及啓発活動等を通じて、野鳥やコイ等へのえさやり防止を呼び掛けるとともに、豊かな生態環境と保全の取組について、興味や関心を高めて頂けました。

また、NPOと連携した生態調査の継続とともに、ブルーギル2,300匹以上をはじめとした外来種の駆除を行い、生態環境を改善しました。



杉並工業高校作成のバナー

コロナ禍だからの楽しみ、公園や季節を感じる機会の提供

■コロナ対応セルフ型・クラフト教室 【事業計画 3-②-92 評価区分 23】

感染症対策として、従来の工作教室に代えて、子ども達が自ら材料を選び、ガイドを見ながら自宅でも工作できる、非接触・セルフ型のキットを配布しました。さらに、ミニギャラリー内には人数限定で作業可能な「セルフ工作コーナー」を設置。難易度によって3タイプのキットを用意することで、親子連れからお年寄りまで幅広い世代に楽しんで頂くことができました。



工作コーナーはコロナ対策を徹底

■コロナ禍での情報発信 【事業計画 3-②-67 評価区分 20】

同様に自然観察会に代えて、季節ごとに SNS 動画を配信するなどし、情報発信を強化しました。一見ゴミにしか見えないものが、実はアブラムシなどの食べカスをくっつけて歩くクサカゲロウの幼虫だったことを紹介したシュールな動画などは、再生回数が700回を超えるなど関心は予想以上に高く、外出自粛等で来園できない方にも公園の自然や季節の移り変わりを楽しんで頂くことができました。

人にも生態系にも配慮した善福寺公園の施設改良

■善福寺池の水質や生態系保全 【事業計画 3-③-6 評価区分 3】

夏場、池に発生するアオコ対策として、経年劣化した水門仕切板を改良しました。このことで、職員が一人でも容易に水門の開閉が可能となり、アオコの小さな放出と定期清掃によって、水質改善に繋げることができました。さらに、生物多様性保全戦略に基づいた500㎡のヨシ刈りにおいては、エリア分けによる計画的な作業によって野鳥の飛来地や営巣地を傷つけずに、景観と生態環境を向上させることができました。



仕切板でアオコを放出

■ウォーキングコースの改良 【事業計画 3-③-8 評価区分 2】

コロナ禍における適度な運動と健康推進のため、ウォーキングコースの見直しを図り、案内板や距離表示を設置しました。以前は、「上池 873m」「下池 573m」など、運動目的としては分かりにくい池の周回距離を表示していたため、「上池 1,000mコース」「下池 500mコース」など、新たに3つのコースを設定し、それぞれにカワセミやスイレン等散策の楽しみを盛り込むことで、多様なニーズに応えることができました。



表示板で見どころを紹介

高井戸公園

様式1-② 令和2年度施設別事業報告書
都市部の公園・北部グループ
指定管理者：公益財団法人東京都公園協会



武蔵野台地の開放的な空間を活かした地域活性化と健やかな公園づくり

「みんなが楽しい公園！」に向けたルールづくりと周知

■高井戸公園・利用ルールの策定 【事業計画 3-②-77 評価区分1】

開園に先駆けて、隣接する杉並区管理の暫定開放区域のモニタリングを行った結果、少年野球やサッカースクール等の常態化によって親子連れなどの利用に支障が生じ、安全上の懸念も寄せられていたことから、改善に向けて東部公園緑地事務所と協議し、みんなが楽しめる新たなルールを策定しました。さらに、区ともタイアップし、HPやSNS、掲示板等を利用した事前周知を広範囲に渡って行うことで、開園後のスムーズなルール浸透と混乱防止に繋げることができました。



■マナーアップキャンペーンによるルール周知

開園後1週間は、花の種を添えた利用ルールカード(750セット)を配布するキャンペーンを実施し、ルールの周知徹底に努めました。



当初は週末を中心にサッカー等のチーム練習が目立ちましたが、挨拶を交わしながら、利用ルールを丁寧に説明することで、大きなトラブルなくご協力いただけ、

開園から約1カ月かけて、ルールを浸透させることができ、みんなが楽しく安心して利用できる環境が整いました。



(前) 学生によるラグビー練習など



(後) 親子連れが安心して遊べる空間に

開園に向けた細やかな事前準備とワクワク感の創出

■利用者への丁寧なおもてなし 【事業計画 3-③-32 評価区分2】

区部公園としては約10年振りの新規開園となるため、課題などを東部公園の工事課とも共有し、事前に枯枝処理や、芝生上のガラ石等の除去を徹底して行い、草刈りやトイレ清掃、コロナ対策等を前倒しで実施することで、安全で整然とした環境を整え、無事に開園日を迎えることができました。

また開園前に、高井戸公園のHPやSNSを開設し、パンフを作成するなどして利用者の期待を高め、開園当日は「楽しみにしていました！」など多くの喜びの声を聴くことができました。



ガラ石の除去



高井戸公園のTwitter

令和2年6月1日 コロナに負けず、高井戸公園オープン！

■開園と万全のコロナ対策 【事業計画 3-③-23 評価区分15】

開園日はあいにくの空模様でしたが、傘を差して待つ方もあり、雨上がりには多くの親子連れで賑わいました。コロナ禍真っ只中での開園となりましたが、事前に三密防止を促す掲示や呼びかけ、手洗いやトイレに石鹸を設置し、手洗い励行するなど対策を徹底し、コロナ関連の苦情ゼロを達成しました。その後も、開園当時のきれいな公園を保つよう、トイレ清掃やゴミ回収を徹底することで、顧客満足度調査における総合満足度は4.6ポイントと高い評価を得ています。



オープン直後の様子

利用者ニーズの把握と積極的なサービス提供

■自動販売機の設置 【事業計画 3-②-34 評価区分20】

夏場の開園となったため、当初から要望が多かった飲料の自動販売機について、設置場所や電気工事等についての調整を積極的に重ね、東京都とも協議のうえ当協会営業課による設置を完了しました。以前は、飲料を求めて、園内から徒歩5分程の場所まで坂道経由で買いに行かなければならなかったため、小さな子ども連れを中心に多くの感謝の声を頂くとともに、熱中症予防等に貢献することができました。



サービスセンター前の自販機

■よしずによる快適空間の提供 【事業計画 3-②-99 評価区分23】

また、開園したばかりでまとまった緑陰が不足していたことから、夏場に日陰を提供するため、芝生広場やパーゴラ等の7カ所によしずを設置しました。以前は、1カ所しかないあずまやに親子連れが密集するようなこともあったため、新たな休憩スペースの創出は三密防止にも繋がり、大変好評でした。



よしず設置による日陰の確保

地域に愛される公園を目指して

■近隣小学校とのコラボ授業

【事業計画 3-①-4、3-②-34 評価区分14、30】

公園の機能や魅力をよりよく理解してもらうため、富士見ヶ丘小学校の生活科とコラボした授業を展開しました。コロナ対策のため、タブレット端末を介した説明や、質問への回答となりましたが、公園のコンセプトやルール、地域における防災上の役割等を紹介することで、より愛着を深めてもらい、今後の協力関係を築くことができました。

■関係機関と連携した防犯対策

開園前より、夜間の犯罪や迷惑行為について近隣から不安の声が上がっていたことを受けて、深夜帯の利用状況を調査するとともに、高井戸警察との情報共有や連携を通じて、夜間を含む防犯体制を構築しました。特に、近隣の富士見ヶ丘駐在所と連携したパトロールによって、痴漢やひったくり等の犯罪、騒音やスケボー等の迷惑行為を防止することができ、一連の対策については、近隣住民に丁寧な説明を行うことで、理解を取り付けることができました。



小学生からの感謝状



地域関係者との打合せ

浮間公園

荒川の自然・文化の発信と公園を拠点とした地域活性化

様式1-② 平成31年度施設別事業報告書
都市部の公園・北部グループ
指定管理者：公益財団法人東京都公園協会



エリマネによる地域活性化「うきまガーデンカフェプロジェクト」

■「チーム UkiUki」準備委員会の立上げ 【事業計画 3-②-30, 98 評価区分 23】



Ukima Garden Cafe
PROJECT

地域のニーズ把握のため、昨年度実施した「浮間公園オープンハウス」に基づき、風車広場に親子のくつろぎ空間を創出する「うきまガーデンカフェプロジェクト」を立ち上げました。北区・板橋区の街づくりや広報、子育て支援を担う民間企業、NPO等5団体と組織する「チーム UkiUki」準備委員会にてクラウドファンディングを実施したところ、「こんな企画を待っていた!」など60名より、目標額の50万を上回る約58万円の支援を獲得。春のガーデンカフェ開催に向けたプロジェクトを進めています。

■地域の声を集めるプレガーデン

プロジェクトの周知と、「こんなくつろぎツールがあったらいいな」という利用者のヒアリングのため、プレガーデンを開催。遊具メーカーの協賛を受け、ガーデンチェア、新型ベンチ、ラグの3タイプを体験してもらい、好みのものを選択頂きました。結果はラグが1番人気で、約400のサンプルを収集することができ、今後のプロジェクト運営に反映し、快適なサードプレイスを創出していきます。



3タイプのくつろぎツールを体験

■みんなで植付ワークショップ

新たに募ったボランティアや、近隣5保育園など、延べ380名の協力を得て、クラウドファンディングで購入したチューリップの球根1万球を植え付けました。花壇デザインやワークショップ講師をNHK「趣味の園芸」にも出演しているガーデナーが務め、質や地域の期待感を高めています。参加者からも、地域が一体となって活性化し、愛着を深めていけるプロジェクトとして多くの賛同と継続的な活動協力を繋げることができました。



講師によるワークショップ

地域が一体となった適正化！不法屋台の排除と迷惑駐輪ゼロ

■駅前広場安全や美観の確保 【事業計画 3-②-74 評価区分 1】

赤羽警察署・志村警察署・第四建設事務所・板橋区への積極的な情報提供と協力依頼によって、20年以上に渡って桜花期の入口広場前に出店してきた不法屋台約10台を排除しました。このことで、動線上の支障や、園内へのゴミ捨て、給水や洗い物を含む水の無断使用等がなくなり、適正化を図ることができました。また、引き続き、3か国語での注意喚起や、巡回・警告など地道な取組によって迷惑駐輪ゼロを継続することができました。



桜花期の不法屋台（かつての様子）

浮間公園発のSDGs「ブルーギルバイバイプロジェクト」



■ 釣り人と連携した環境保全と普及啓発 【事業計画 3-②-46、3-③-10 評価区分 22】

浮間ヶ池の環境や生物多様性保全につながる一步として、「外来種回収ボックス」を設置し、釣り人などに広く協力を呼びかけました。これまではキャッチ&リリースだったブルーギル等の外来種を回収することで、210kg 以上を駆除することができました。また、サービスセンター前に設置した在来生物の展示水槽や SNS やチラシ配布等を通じて、生物多様性保全への理解や公園への愛着を深めることができました。



釣り上げたブルーギルを回収

■ コンポストによるたい肥化と、花壇等での循環利用

回収した外来種はコンポストでたい肥化し、出来上がった約 400ℓをボランティアとともに花壇にすき込むことで、園内循環のサイクルを確立しました。このことで生まれた「単純な駆除」から「自然に帰る」という図式は、子ども達の「お魚さんがかわいそう…」という素朴な声にも応え、保育園等の環境学習に一役買うこともでき、廃棄物を削減しつつ公園の魅力アップに繋げることができました。



比較実験でも効果が実証（左:たい肥あり）

新型コロナウイルス等の感染予防対策と BCP 訓練の実施

■ 感染症予防対策の徹底 【事業計画 3-②-15、3-③-23 評価区分 13、15】

三密防止のため、ツイッターや HP、園内放送、園内掲示のほか、巡回中の声掛けによる意識啓発を行い、ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用、団体利用の自粛等に繋げることができました。

また浮間公園では、緊急事態宣言以前より、遊具や駐車場の閉鎖を望む近隣の声が多数寄せられていたため、東京都の閉鎖決定後は速やかに措置をとり、すでに予約が入っていたスポーツ施設利用者（1,235件）に対して1件1件丁寧に中止の旨をご連絡し、トラブルなく了承いただくことができました。

■ クラスタ発生時に備えた BCP 訓練の実施

地域密着型公園で、内外に高い危機意識があった浮間公園では、テニスコートでのクラスタ発生を想定した BCP 訓練を行い、時系列の行動計画を作成するなど、課題や成果を他公園にも波及することができました。また後日、陽性反応者のテニスコート利用歴が発覚した際も、保健所をはじめ各施設と連携し、施設消毒など冷静かつ適切に対処することができました。



クラスタ発生を想定した BCP 訓練

子どもからお年寄りまで、みんなが快適なトイレを実現

■ 全箇所子ども用便座設置【事業計画 3-③-1 評価区分 2、27】

これまでは子ども用便座を求めて、遊具広場等より遠くサービスセンターに駆け込むことも多かった親子連れのニーズに答え昨年度の洋便器化に続き、園内 22 基の大便器に可動式の子ども用便座を設置しました。合わせてトイレ清掃も強化し、顧客満足度調査でも「施設の清潔さ」が 0.4 ポイント向上しました。



可動式の子供用便座

赤塚公園

様式1-② 令和2年度施設別事業報告書
都市部の公園・北部グループ
指定管理者：公益財団法人東京都公園協会

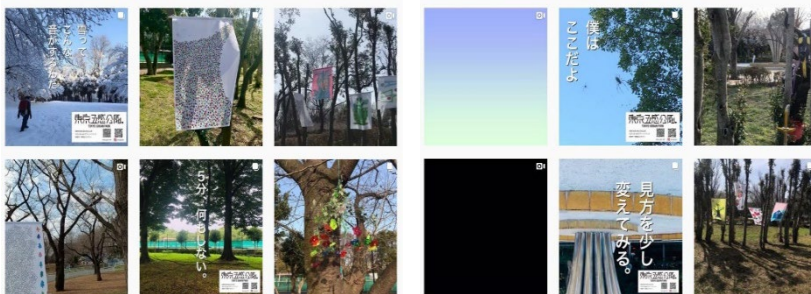


武蔵野崖線の自然、地域の歴史・文化の発信と健やかな公園づくり

「東京五感公園」を地域に根差した一大イベントに！

■赤塚公園でアートイベント 【SDGs：11,17】 【事業計画 3-②-92、4-自-5 評価区分23】

アートイベント「東京五感公園」は、地域の協力の輪が徐々に拡大し、昨年度は3,700人が参加するなど、高島平地区の一大イベントへと成長しました。今年度はコロナ禍で開催が危ぶまれるなか、関係者一同が「せっかく巻き起こった地域のムーブメントを絶やさない！」という強い決意のもと実施方法を模索し、WEB上でのアート体感に変更。近隣の小・中・高・特別支援学校や、地元アーティストに加え、広く作品を公募したところ、アール・ブリュットのNPOをはじめ、14の個人・団体から、26の作品を集めることができました。三密等防止のため、公園のあちこちに作品を展示しては撮影、撤去を繰り返し、合計56の動画等を編集、Twitter・facebook・Instagram等のSNSで展開したところ、Instagramの「いいね」は800以上、facebookのページリーチは1,700を超えるなど、多くの反響があり、地域との連携強化や新たな魅力発信とともに、コロナ禍によって作品発表の場を失ったアーティスト救済にも繋げることができました。



インスタへの投稿



コロナ禍でも公園を堪能！赤塚公園ヴァーチャル体験ツアー

■ツイッターによる動画等の配信 【事業計画 3-②-67 評価区分21】

新型コロナウイルス感染症対策として自然観察会に代え、外出を控える方などに向けて、季節ごとの公園の魅力が詰まった「ヴァーチャル体験ツアー」の動画を作成し、ツイッターで多方面に発信しました。園内の見頃の草花を紹介した企画や、紅葉で彩られたジョギングコースを1周してみた企画、冬の風物詩「雪吊り」作業の一部始終を早回しで紹介した企画など、1週間で300回以上再生された企画もあり、関心の高さがうかがえました。また、「360°カメラ」で撮影した臨場感のあるパノラマ画像もアップし、自宅にいながらにして赤塚公園や季節の魅力をリアルに感じていただくことができました。



ツイッターでの動画配信

地域で取り組むSDGs！赤塚公園の生態保全活動



■ ボランティア若返りのためのリーダー育成

【事業計画 3-②-48、3-③-10 評価区分 22】

赤塚公園では、5つのボランティア団体が加盟する「赤塚公園友の会」に、板橋区を交えた月例会を開催し、その都度課題を共有し、改善策について討議を行っています。都内最大のニリンソウ自生地や、武蔵野崖線沿いに広がる緑豊かな樹林・湧水を後世まで保全していくにあたって「ボランティアの高齢化により、団体の存続が危うくなっている」という危機感から生まれたのが、「ボランティア担い手作り講座」です。各団体の代表が講師を務めた計3回の講座を通じて、今年度は5名の応募から最終的に2名が修了となり、次世代のリーダー候補を育成することができました。

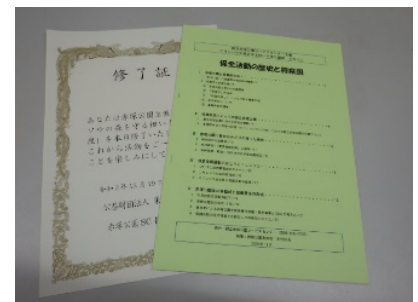


実際の手入れ活動を講義

■ 希少植物の保全とPR活動

【事業計画 3-②-45、3-③-4、評価区分 6、22】

「赤塚公園友の会」と協働によって、毎週の園内モニタリングと、毎月の草刈・除草等の作業を実施しました。春先に開花するニリンソウにスポットが当たりがちですが、周辺環境整備は一年を通じた除草など地道な作業に支えられています。そのため毎月2回、モニタリングレポートを発表することで、園内に自生する希少植物等の現状把握と保護、普及啓発が促進されました。レポート展示は好評で「ぜひ、欲しい」との声を受け、配布用も用意することで更なるPRに繋げることができました。



講座テキストと修了証

■ 特別支援学校との協働による美化活動

【事業計画 3-②-50 評価区分 22】

昨年度からイベントや避難訓練等で連携し、交流を深めている都立高島特別支援学校と協働し、清掃活動を初めて実施しました。生徒の安全面を考慮し、1回目、2回目と徐々にレベルを上げ、皆で励ましながら作業を行うことで、道具の扱いにも慣れ、「最後までやり通す」「公園が綺麗になる」という達成感を持って頂けました。職員や来園者からのお礼に、生徒たちは晴れがましかったり、照れくさそうだったり様々な表情を見せ、今後の更なる活動にも繋げることができました。



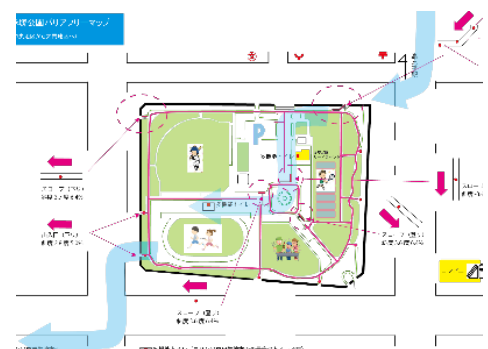
みんな行きたくなる赤塚公園、バリアフリーの促進



■ バリアフリールートマップ作製

【事業計画 3-②-67、3-③-8 評価区分 2】

ニリンソウ自生地や、武蔵野崖線沿いの自然をより多くの方々に堪能頂くため、車椅子利用者と約1kmの舗装ルートを実走し、課題を抽出しました。結果、ルート内で1カ所の段差と、1カ所の根上がりによる凹凸が障害になっていることが分かったため、新たに舗装し直すことでバリアフリールートを設定することができました。合わせて、英語も追記したバリアフリーマップの新設と、SNSで新ルートの「ヴァーチャル体験ツアー」の動画配信を行うことで、広く利用促進を図ることができました。



中央地区から大門地区へルート延伸

石神井公園

武蔵野三大湧水地の景観と地域の歴史・文化の継承
及び公園を拠点とした地域活性化

様式1-② 令和2年度施設別事業報告書
都市部の公園・北部グループ
指定管理者：公益財団法人東京都公園協会



石神井公園の魅力を全力発信！SDGsに向けた取組



■コロナ禍でも公園や自然の魅力をお届け

【事業計画様式3-②-40、評価区分20】

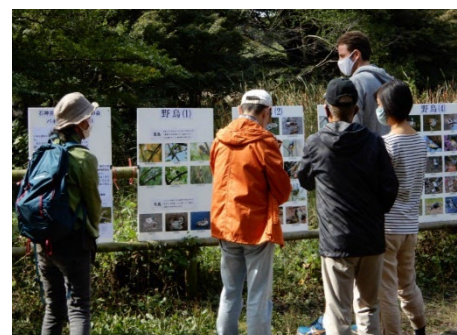
コロナ禍でやむなく中止した自然観察会に代えて、ツイッターをほぼ毎日アップし、園内の自然情報をタイムリーに発信しました。サービスセンターのロビーで実施した、カラスアゲ等が幼虫からさなぎ、そして羽化していく様子を観察できる生態展示の様子も合わせて配信し、フォロワー数は前年比210%となる約2,000人となるなど、コロナ禍で外出を自粛される方などにも、公園の自然や季節を感じていただくことができました。

また、園内のブラックボードなどで、石神井公園の旬な情報を提供する「Nature information」と「見ごろの生き物マップ」を毎月更新し、「散策用に欲しい」との要望が多かったマップは、ハンディ版を用意するなどして、公園や自然のファンを増やすことができました。

■「三宝寺池自然誌学校」の開校

【事業計画様式3-②-46、様式3-③-5 評価区分6.20】

NPOやボランティアとの連携により、外来種防除の普及啓発を中心とした「三宝寺池自然誌学校」を開校。感染症対策として例年より規模を縮小し屋外パネル展示をメインに、水槽展示や、アメリカザリガニ等の外来種回収を実施し、幅広い世代の約500人に、石神井公園の豊かな生物多様性、外来種防除の取組等について普及啓発することができました。また、NPOと連携した生態調査の継続とともに、ブルーギル約700匹やブラックバス約200匹をはじめとした外来種の駆除を行い、生態環境を改善しました。



生物多様性の紹介パネル

公園の利用特性に応じた新型コロナウイルス対策

■来園者の急増に迅速に対応！

【事業計画3-③-23 評価区分15】

石神井公園では、緊急事態宣言に伴う一斉休校や店舗休業等で公園の需要がますます高まり、週末には1日に3万人が来園するなどして、安全対策を求める声や、マスク未着用のランナーに対する苦情が多数寄せられました。そこで約40基のフレキシブルサインや、都や遊具メーカー提供のバナーの設置、巡回での声掛け強化など、迅速な対応によって感染拡大防止に貢献しました。

さらに、SNSやHP、掲示板、園内放送等で感染症対策や外出自粛に関する意識啓発を行うとともに、遊具やスポーツ施設、駐車場等の休止や再開にあたっては滞りなく安全に措置を完了しました。



ソーシャルディスタンスを保った散策等をお願い（写真はGW時）

地域と一体となった公園管理と魅力アップ

■地域連携による、公園一帯の関心と愛着の醸成

【事業計画 3-②-42 評価区分 23】

練馬区立「石神井公園ふるさと文化館」や周辺の神社仏閣と連携し、石神井城の歴史・伝説・文化等を、分かりやすく解説する歴史ツアーを開催。学芸員による専門的な見地を踏まえた質の高いガイドと、地域一帯の歴史資源の体感によって、参加者の高い満足度と、公園や地域への関心や愛着の醸成に繋げることができました。

■区立図書館内に石神井公園の展示ブースを設置

【事業計画 3-②-30 評価区分 21】

練馬区立「石神井図書館」との連携により、図書館内に「石神井公園歴史と自然」ブースを設置しました。石神井公園を題材にした文学書をはじめ、周辺の見どころマップや昭和初期の写真パネル等を展示するなど、外部のブース設置という新たな手法によって、普段は公園に足が向かないような新たな利用者に向けても、公園の魅力をPRすることができました。

■「石神井公園自然情報連絡会」の開催

【事業計画 3-②-30、3-③-5 評価区分 22、32】

石神井公園では、生物多様性に関わるボランティアが多数活動しており、メンバー間の情報共有や活動推進のため月例で「石神井公園自然情報連絡会」を開催しています。今年度は、東部公園緑地事務所の事業推進課の「石神井池かいぼり事業」や、工事課の「未開園地整備事業」等に関する調整も進め、「かいぼり」では、排水方法等について幅広い意見収集と、多様な主体が納得いく形の合意に繋げることができました。また、事業目的や成果をSNS等を活用して積極的に周知することで、外来種約 5,400 匹の駆除や在来種約 2,000 匹の保護等の保全に繋がった都事業を的確に支援・協力することができました。



近隣施設を含むツアー（氷川神社）



図書館内のブース



連絡会議の様子

パークビュースポットの景観や快適性の向上

■PDCA サイクルに基づく施設補修

【事業計画 3-③-1.4 評価区分 2】

PDCA サイクルに基づく計画的な補修計画により、三宝寺池のベンチ 45 基や手摺り 27m、石神井池の土留柵 76m等の補修を行いました。安全性や景観の向上はもとより、予防保全的な維持補修と、一部木材を擬木材に見直すなどして長寿命化とライフサイクルコストの低減に繋げることができました。

■バリアフリーでみんなが快適

【事業計画 3-③-1.4 評価区分 2】

三宝寺池をぐるりと取り囲む木道に経年劣化による段差が生じたり、木柵にぐらつきが生じたりしないよう、バリアフリーを意識した点検・補修を行い、安全性や快適性が向上。また、大井戸排出口や堰付近等に浮かぶゴミや落葉の小まめな清掃をすることで、石神井公園のパークビューである三宝寺池の魅力アップに繋げ、SNS で積極的に発信しました。



三宝寺池周りの木道の補修

大泉中央公園

様式1-② 令和2年度施設別事業報告書
都市部の公園・北部グループ
指定管理者：公益財団法人東京都公園協会



自主事業「公園と街を巡る
スタンプラリー」のスタンプ
大泉中央公園は「ちょう」

隣接公園と一体となった健やか自然ふれあい公園づくり

公園丸ごと SDG s 空間！「みんなの多様性プロジェクト」



■ 生物多様性への取組 【事業計画 3-③-5, 10 評価区分 20】

昨年度拡充した「ちょうの里」に、新たにアリウム、サンジャクバーベナなど季節ごとの吸蜜植物 15 種を配置し、希少なジャコウアゲハなど 10 種以上のチョウが集う、人にもチョウにも快適な空間を創出しました。さらに、子ども達の環境学習ツールとして五感を使って自然を体験する「ちょうの里たんけんビンゴ」を開発し、多くの親子連れに、ゲームを通じて楽しく、環境への理解と公園への愛着を深めてもらいました。

また、ボランティアと協働したカントウタンポポ保全では選択的除草エリアを約 27,000 m²に拡大。さらにカブトムシ等の生育環境向上や、カワラナデシコの育苗を行うとともに、SNS 等での普及啓発を通じて、公園全体で生物多様性を実感し、興味や学びを深める場を提供することができました。

■ 体験型花壇「大泉富士」【事業計画 3-③-10 評価区分 20】

ボランティアの高齢化によって放置されかかっていた大型花壇を、SDGs に基づく多機能な山「大泉富士」に改修する工事に着手しました。園内廃材の利活用による発生材や処分費の削減、花壇のバックヤード機能の確保、昆虫類の育成保全とともに、新たな魅力スポット創出によって利用者の環境保全に対する普及啓発にも繋がっており、今後の補植等において更なる魅力向上を図っていきます。

■ 適切な害虫対応による地域の生態保全 【事業計画 3-③-16 評価区分 4】

全国的にも問題となっているカシナガキクイムシによるナラ枯れが園内でも 6 本発生しましたが、樹木診断による早期発見と、周囲の安全確保、害虫の休眠期に伐採処理するなど適切な対応を行い、倒木等の危険や、近隣 2 公園への拡散を防止することができました。



ちょうの里たんけんビンゴ



「大泉富士」完成イメージ

東京 2020 大会に向けたインバウンド対応

■ 「和」空間の創出 【事業計画 3-③-4, 46 評価区分 31】

隣接する朝霞駐屯地が、東京 2020 大会の射撃競技会場となることから、インバウンドを意識した「和」のおもてなし空間を創出し、日英中 3 か国語の看板を用いて紹介したところ、職員の造園技術を活かした枯山水風の庭は、「映える」フォトスポットとして人気になりました。さらに会場へと続く「ちょうの道」には、産業労働局より提供された、チョウも好むアベリア 50 本を補植し、入口となる水の広場には、ウェルカムゲートや夏花壇を配置することで、残念ながら来年度に延期となりましたが、東京 2020 大会の機運醸成を図りました。



職員創作の「和」の空間

「こんな時だからこそ公園の楽しみを！」ウィズコロナの取組

■万全のコロナ対策のもとイベントを開催

【事業計画 3-②-87, 92, 評価区分 23】

今年度は新型コロナウイルスの影響で、新たな公園利用のあり方が問われた一年となりましたが、緊急事態宣言解除後のイベント等開催にあたっては、都の指針に基づいた万全の対策のもとに運営を行いました。毎年人気の近隣3公園合同イベント「キッズチャレンジ」や、アートイベント「サンドアートフェスティバル」、クリーンアップキャンペーン「焼いも大会」など、プログラムの一部変更や規模縮小などを講じつつ、検温や消毒、イベント参加者や待機列のオペレーション見直しなどによって三密を防止するなど対策を徹底のうえ、コロナ禍だからこそ公園の持つポテンシャルを最大限発揮し、少しでも開放的な気分を味わい楽しんで頂けるよう、公園として積極的な役割を果たしていきました。



区画割りによる三密防止



ソーシャルディスタンスの確保徹底

■外出自粛中も公園や季節の魅力をお届け

【事業計画 3-②-37, 44, 94 評価区分 21】

やむなく中止になった自然観察会に代えて、チョウ類やキノコ類を紹介したシリーズものや、「360°カメラ」による紅葉映像など、Twitterによる情報発信を強化し、外出自粛中であっても、多くの方に公園や季節の魅力を感じて頂くことができました。またスポーツ教室に代えて、アシックス社と共同制作した正しいウォーキング・ジョギングの紹介動画を配信し、運動不足やストレス解消にも寄与しました。さらにクラフト教室に代えて、自宅で楽しめるようマツボックリやドングリを活用した工作キットを配布し、コロナ禍ならではの工夫で、大泉中央公園の魅力をお届けしました。



工作キットの一例

「地域みんなで乗り切ろう！」一丸となったコロナ対策

■3公園連絡協議会ほかの開催

【事業計画 3-②-26、3-③-23 評価区分 15, 22】

都立/県立/区立とそれぞれ異なる運営体制にあっても、コロナ対策における齟齬や地域の混乱等が生じないよう、連絡協議会を主導し、三密防止や協力の呼びかけ、遊具・スポーツ施設・駐車場等の閉鎖及び再開における適切な案内・処置を、3公園が足並みを揃えて実施し、地域の安全と安心に資することができました。また、地域の子育て団体との協議会も活用し、情報共有や一連の対応における連携を図ることができました。



近隣3公園による連絡協議会

■コロナ禍における健康増進への寄与

【事業計画 3-③-57 評価区分 31】

2020 東京大会も見据えたスポーツ気運の醸成とともに、コロナ禍において少しでも健康維持や気分転換に役立て頂きたいという思いから、3つのジョギング・ウォーキングコースを新設し、それぞれにアイコンを設定のうえ、園内案内板や標識を更新しました。コースごとに野鳥、チョウ、サクラなどの園内の魅力を体感できるよう工夫することで、大泉ならではの楽しみを感じながらの健康増進に寄与することができました。